

## アナログプレイヤーの比較試聴(8)

### —モーツアルトを聴く(8)—

#### 1. 始めに

前報(7)に引き続き、アナログプレイヤー3機種の比較試聴を実施していきます。

#### 2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は前報(1)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も弦楽四重奏です。

**TELEFUNKEN SLA-1221**

モーツアルト 弦楽四重奏曲第16番変ホ長調

弦楽四重奏曲第17番変ロ長調「狩」

ウィーン・アルバンベルグ弦楽四重奏団

#### 3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

1978年のTELDEC スタディオでの録音です。

ZANDEN のリストではTELEFUNKEN レーベルは、TELDEC カーブと DECCA カーブの二つが記載されていますが、実際に聴き比べてみた結果、弦の艶が出るということで、ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と Grrad401 では、DECCA、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

ThorenTD124 の再生では、盤質はよくないものの、かなりの再生パフォーマンスを示しますが、ディテールの再現は LINN LP-12 に及ばず、アルバンベルグの演奏を十全に伝えるところまではいきません。

LINN LP-12 の再生では、盤質はよくないものの、艶のある弦がウィーン風に優雅に歌うモーツアルトです。

Grrad401 の再生では、ディテールの再現は LINN LP-12 に及びませんが、近似した再生パフォーマンスです。

#### 4. まとめ

3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、盤質はよくないもののこれまでにない優雅な演奏が聴き取れます。

8回にわたってモーツアルトの弦楽四重奏を聴いてきましたが、それぞれ3様の再生パフォーマンスが示され、全般的にはこれまでの印象が変わってきています。その中で LINN LP-12 はもっとも安定した音質の再生ですが、カートリッジが

LINN LP-12 と違い、フォノイコが LINN LP-12 と同じ Grrad401 は盤によって LINN LP-12 に近い音質の場合もあれば、ディテールの再現で及ばないこともあります。カートリッジもフォノイコが LINN LP-12 と違う ThorenTD124 の場合は、LINN LP-12 とかけ離れた音質の場合もあれば、盤に依っては LINN LP-12 がない魅力を示す場合もあって、有意義な聴き比べでした。

以上